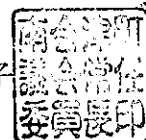




元議委第66号
令和元年11月29日

南会津町議会議長 室井 嘉吉 様

南会津町広報委員会委員長 丸山 陽子



令和元年度町村議会広報研修会の報告について

全国町村議会議長会主催の標記研修会について、議会広報委員会として出席してまいりましたので、下記のとおり報告いたします。

記

1. 日 時:令和元年9月24日(火)午後1時～5時00分
2. 場 所:シェーンバッハ・サボー 1階大会議室
(東京都千代田区)
3. 出席者:委員:丸山 陽子・馬場 浩・五十嵐 芳道・川島 進・渡部 訓正・湯田 哲
議会事務局:渡部 浩一主査
4. 研修項目
 - 「読者目線で親切的な広報紙を作るには～手に取られ、読まれ、行動に結びつけるには～」
講師:月刊総務 編集長 豊田 健一 氏
 - 「情報をわかりやすく伝える」
講師:朝日新聞メディアプロダクション校閲事業部長 前田 安正 氏
 - 「町村議会コンクール上位入賞団体の評価ポイント」
講師:エディター、広報アナリスト 吉村 潔 氏
5. 研修内容
 - 「読者目線で親切的な広報紙を作るには～手に取られ、読まれ、行動に結びつけるには～」
講師:月刊総務 編集長 豊田 健一 氏
 - ◆住民目線に立った編集が不可欠である。
広報紙の発行目的には、住民と議会との良好な関係作りであり、住民が議会への関心を高め、議会に参加し、共により良い地域社会をつくっていくためのものである。
①初めて議会広報紙をみる住民の方にもわかるような文章表現であること。

- ②課題を伝え共有してもらう。
- ③読んでもらえなければ、発行の意味がない。
- ④紙面へ住民の皆さんの登場や声を反映させる工夫、編集体制を。

○「情報をわかりやすく伝える」

講師：朝日新聞メディアプロダクション校閲事業部長 前田 安正 氏

◆第三者に伝えるための文章は、どうあるべきか。

閉じられたコミュニケーションから開かれたコミュニケーション手段として過不足のない文章を書くこと、誰に向けた情報なのかを意識することが大切である。

また、WHY(なぜ)を意識して文章を作ること。分かりやすい文章の基本は、読み手が理解しやすい文章にする。そして、不快にさせない表現を意識することである。

- ①どこに焦点をあてるか。主役になるものは何かを明確に。
- ②見出し、リード、キャプション、文章の構成技術が必要。
- ③差別的表現は、避ける。

○「町村議会コンクール上位入賞団体の評価ポイント」

講師：エディター、広報アナリスト 吉村 潔 氏

◆平成30年度町村議会広報コンクールで、最優秀賞を受賞した埼玉県寄居町議会と優秀賞の宮城県川崎町議会の議会広報紙を事例として評価のポイントをお話いただきました。 受賞された広報紙の共通点について、以下7点を上げ講評がありました。

- ①議会活性化と広報活性化を両輪にしている。
- ②編集方針(マニュアル)を定めている。
- ③議事録形式ではなく、住民目線のわかりやすい広報を重視。
- ④委員会が権限をもち、公平公正な視点で編集・修正する。
- ⑤住民の関心の高い案件を優先順位をつけて掲載する。
- ⑥住民の顔が見え、住民の声が聞こえる広報の実践。
- ⑦編集会議には議長、事務局も出席する。

6. 総括

議会広報紙の目的や広報紙の役割を再度見直す機会となりました。議会からの一方的な発信でなく多くの町民の皆さまと関わりながら、必要とされる広報紙の作成に努め多くの町民の皆さんに手に取って読んでいただける、わかりやすい広報紙の作成に心がけてまいります。